

令和7年度 第2回 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会 議事概要

日時：令和7年12月11日（木）15:00～17:00

場所：国土交通省 九州地方整備局 佐賀河川事務所

【出席者】

大串委員長、ナルモン委員、加藤委員、古賀委員、後藤委員、重藤委員、田島委員、徳田委員、山本委員（WEB参加）

【結 果】■ 委員 ○ 事務局

1. 「嘉瀬川水系河川整備計画（変更原案）」に対する意見聴取結果及び「嘉瀬川水系河川整備計画（変更案）【案】」への反映について（資料-2、資料-3、資料-4）

1) 質疑

- アバンセでの住民説明会の参加者が7人であることは問題ないか。広報ができていなかったのではないか。
- 説明会については自治会の会合の中で周知したほか自治会を通じた回覧等により幅広く周知している。日程的に久保田公民館や春日公民館で先に説明会を開催したため、関心が高い方は既に参加いただいていたものとする。また、説明会時期や会場については自治体とも意見交換をしたうえでの決定であるが、周知の方法については今後考えていく。
- 説明会に水産業関係者は参加していたか。また、海苔の不作に関して河川からの放流量増加を希望される方はいたか。
- 把握できている限りでは水産業関係者は参加されていないと思われる。特に放流量に関する意見はなかった。
- 海苔が不作ということもあり、佐賀市も水草の撤去など対策を行っている。また、冬期に放流できないかと思っている。
- 事業を進めていく中で、水産業関係者とも意見交換を実施している。水が必要な時期とそうではない時期があると聞いているので、総合的な水管理も含め、地域の声を聞きながら具現化していきたいと考えている。
- 筑後川水系とも連携して進めてもらいたい。
- 整備計画に今後の課題を明記する必要はないのか。
- 河川の計画変更の流れとしては、基本方針を変更してから整備計画を変更するのが通例であるが、佐賀市の排水計画との連携等もあり、先行して整備計画を変更しているため、現行方針の内数での記載に留めざるを得ない。前回のご意見も踏まえ、今後に繋がるよう整備計画への追記はしているが、基本方針変更時に今後の課題をしっかりと記載させていただきたい。

- 整備計画の立案方針はそれでよいが、整備計画から基本方針へのボトムアップも必要と考えている。特に、環境はローカルな話になるため、理念だけで終わらず、地方からのアイデア出しも必要。
- 地方が抱える課題や実情は知見を蓄積しながら継承していく。また、その課題に対応していくことが現場を持つ事務所の責務と認識している。
- よろしくお願いします。
- 整備計画本文の2章に記載されている現状と課題について、今回の計画への記載でできる範囲は限られ、できないことが当然出てくる。嘉瀬川を管理する事務所としてそれを踏まえて今後に繋げてほしい。
- 承知した。

2. 「嘉瀬川直轄河川改修事業」の事業再評価（資料-5）

1) 質疑

- 整備計画変更原案で戦後第2位と同規模に気候変動考慮を目標としているが、超過洪水の場合にどれくらいの費用便益比があるのか試算していれば教えてほしい。
- 超過洪水時の費用便益比は試算していないが、基本方針見直しの際には確認したい。
- 超過洪水のことを何も考えなくて良いのかということと、バルーンフェスタの会場となっている高水敷の掘削はイベントの開催に影響はないのかの2点教えてほしい。
- 超過洪水時のリスクバランスも踏まえメニューを実施する箇所や整備量を検討している。具体的には、佐賀市中心部まで氾濫が及ぶおそれのある石井樋付近から官人橋までは整備量を多くし、計画高水位を最初に超過するのが家屋被害の少ない区間となるように調整している。また、バルーン区間の掘削については、冠水の高さや頻度、高水敷が湿潤化しないか確認しながら利活用面を考慮して掘削の高さを設定している。レジリエンススペースなど、掘削土の有効活用しながら、佐賀市とも連携しながら整備を進めていきたい。
- 該当区間の高水敷の地質は砂質であるか。
- 粘性土ではないが、砂質でもないと把握しているが、地質についても確認しながら整備を進めていく。
- 掘削土を利用して堤防腹付け等を実施するという話について、それも良いと思うが、破堤しやすい場所がわかっているのであれば、そこに関して重点的に堤防腹付けなど対策を実施してほしい。
- 堤防強化については現行の整備計画でも実施しているが、住民の方々と膝をつき合わせた意見交換も行いながら対応していきたい。

■流域治水に取り組む中で、クリークの事前落水をすることでクリークの底が陸化する時間が長期化し、元々水没することで繁殖していなかった外来種が増加することが危惧されるため、調査をした方が良く考えている。また、近年、佐賀平野全体として相当な規模で冬期にクリークが落水しているが、その影響で一部の淡水魚グループが平野部全体で激減している。かつてはクリークや多布施川の深みで越冬していたが、水深が小さくなり越冬が難しくなっている。嘉瀬川本川の自然度は高まっているので、冬期の魚類のシェルターを嘉瀬川本川で担うなど、支川、派川と本川の生物の移動も流域一環で考えていただきたい。

○クリークは昔から利用されている重要なものと把握しており、国交省としても、流域治水を進めていく中で関係機関と連携してクリークの利活用の検討に取り組んでいきたいと考えているので、引き続きご指導いただきたい。

■P9 の浸水被害の解消は素晴らしいが、住民の方々の誤解を招かないためにも、シミュレーション結果は計画対象規模の洪水による堤防の決壊等によるものであり、内水は含まれないことを追記した方がよい。また、P10 との条件の違いをしっかりと明記すべきである。

○ご指摘の通り、外水による被害を試算しており、内水は含まれない。P10 は目標規模を超えた基本方針規模のシミュレーション結果であるため、堤防の決壊が発生し、外水氾濫が広がっている。

※委員の指摘を踏まえ、P9,10 に注釈を追記

■超過洪水の話に繋がるが、 $200\text{m}^3/\text{s}$ の差でこれだけ被害が拡大する事への対応も考えなければならないと感じる。

■費用便益比で計測出来ない項目で環境創出は考慮されているのか。

○現在の考え方では、環境に関する指標はない。

■環境創出の便益化までできるとよいと思う。

■河道掘削を実施した場合は橋梁の構造にも影響があると考えられる。嘉瀬川は天井川なので、堤防の補強を念頭に置いているのであればもう少し強調しておいた方が良く感じる。また、(P9,10 の) 電力の関係でいくと、強風でなく、浸水が床上レベルになると停電が起こるという想定になるのか。

○河道掘削、堤防強化については地元住民の意見も聞きながら、必要な対応をしっかりと行いたい。また、停電については床上浸水+20cm がコンセントの高さだと想定し、浸水により停電するものとしているため、強風による影響は考慮していない。

3. 「六角川直轄河川改修事業」の事業再評価（資料-6）

1) 質疑

■P11 で、前回から費用便益比が上昇したのはなぜか。

○費用算定における工事諸費の扱いによるものが大きく、前回評価時は人件費等の諸費含みであったが、省内の統一化により、今回から諸費を含まないこととなったためである。

4. 審議結果

- ・嘉瀬川水系河川整備計画（変更案）【案】について、事務局案のとおり公表手続きを進める。
- ・嘉瀬川直轄河川改修事業及び六角川直轄河川改修事業について、事務局案のとおり「事業継続」とする。

5. その他

- ・本懇談会については、公開ということで定める。
- ・本懇談会について参考資料で示した六角川水系における河川整備、六角川流域水害対策計画の策定について、意見、質問等があれば事務局まで連絡いただきたい。

以上